

# 課題研究論文

「スポーツ環境学」について

## 特集にあたって

スポーツ環境学について、本学から情報発信をする。本特集では、競技場などの環境管理、スポーツを通じての環境教育、環境因子と健康の関係について3軸から検討している。

スポーツ環境学の環境工学的視野から、青木豊明は、「人工芝充填物からの有害金属溶出の抑制法」のなかで、人工芝における環境管理の重要性を指摘した。人工芝充填物の黒ゴムチップからの亜鉛の溶出について述べ、著者は黒ゴムチップからの亜鉛の溶出が環境汚染としての問題があることを報告している。また、黒ゴムチップには不快臭の発生やカーボンブラック(炭素微粒子)の飛散などの問題点があり、これらの問題点の改善についても、人が健康的にスポーツをおこなう場を保障する観点から、今後検討する必要があると考えている。

スポーツ環境学の環境教育学的視野から、中野友博は、「環境教育と野外スポーツ—大津市の環境学習の実践、その取り組みの現状と課題」のなかで、大津市で展開されている自然体験型環境学習の取り組みについて述べている。特に自然家族事業などで多くの市民が大津市内の素晴らしい自然環境を体験することで一人でも多くの大津環境人、大津こども環境人を育てたいと考えている。また、今後の地域ごとの活動を進めていく際には、実行組織のあり方についても検討していく必要がある。

スポーツ環境学の環境医学(運動衛生学)的視野から、金森雅夫は、「スポーツ環境学の分野としての運動衛生学(スポーツ環境医学)の構築を目指して」のなかで、低体温症を中心に運動衛生学の必要性を述べている。気候変動と人口の高齢化の大きな波がスポーツを取り巻く環境の中で同時進行しているが、高齢者登山での低体温症の発生要因の解明や安全管理の徹底が必要である。競技をして競い合う、生活を楽しむためのスポーツ(運動)を地球環境と人間健

康の相互作用のなかで位置づける学問体系として運動衛生学—スポーツ環境医学—に期待される課題は大きい。

以上、環境工学、環境教育学、環境医学のそれぞれの基盤からスポーツ環境学について述べている。ここに掲げられたテーマ、方法、課題について全国の読者からの感想と新たな提案を待ちたい。

金 森 雅 夫